

## 平成28年度 第3回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成28年7月19日(火) 10:00~12:00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 13名  
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、  
分館担当係長 9名
- 4 傍聴者 2名
- 5 配布資料 (1) 平成28年7月1日付人事異動・・・・・・・・・・資料1  
(2) 平成28年度 公民館定期講座実施状況表・・・・・・・・・・資料2  
(3) 平成28年度 小平市公民館まつり開催報告・・・・・・・・・・資料3  
(4) 平成28年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・・・・・・資料4  
(5) 平成28年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・・・・・・資料5  
(6) 平成28年度 公民館講座のための意見交換会日程(参加予定者)・資料6  
(7) 平成28年度第2回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・・・・・・資料7
- 6 次第 (1) 館長報告  
(2) 公民館定期講座実施状況について  
(3) 公民館まつり開催報告について  
(4) 公民館事業企画委員会の開催報告について  
(5) 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について  
(6) その他

### 会議の概要

#### 1 館長報告

- (1) 平成28年7月1日付人事異動について  
資料1について説明。

- (2) 6月市議会定例会(公民館に関連した一般質問)について

- ①「選挙権の18歳引き下げをきっかけにシチズンシップ教育を進めよう」(さとう悦子議員)

市で行っている生涯学習の中で、シチズンシップ教育を見据えた若者向けのプログラムや地域の課題に関する講座及びその講座の過去3年間の内容について。

(答弁) 若者を対象に、仲間作りや地域に対する関心を高め、愛着や誇りを醸成することを目的として、ヤングセミナーを毎年実施している。過去3年間の講座内容については、25年度は市内の高校生が自ら企画し、地域の方と連携して小学生向けにスポーツなどの体験学習を行う「高校生ティーチャー講座」、26年度は市内の大学生が地域の方への取材を通して、地域で行われている活動の魅力やその背景にある課題を見つける「地域活動インターシップカレッジ」、27年度は若者の政治への参加意識の向上を目的とした「みんなで考えよう。18歳選挙権であなたが主人公になる時」を実施した。本年度は小学校高学年を対象に、小平を知り地元で愛着を持つことにより将来地域社会に貢献できる人材を育てることを目的に「ジュニア大学」を実施する。

② 「不必要な化学物質を減らすために石けんの利用をすすめよう」(さとう悦子議員)

地域センター・公民館・児童館での手洗い、食器洗いにどんな洗浄剤を使っているか。

(答弁) 公民館での手洗い・食器洗いの洗浄剤は、トイレなどの手洗い用として植物性の原料を使用した石けん液、食器洗い用としては、無添加の石けんを使用している。

(3) 公民館まつりについて

5月21日、22日に開催した第40回上宿公民館まつりについては、来場者数2,208人、うち講演会は123人、開館40周年記念講演会は85人だった。開館40周年の記念のまつりとして、前年比13.5%増となり、子ども連れの家族での来場者が目立っていた。5月28日、29日の第35回花小金井南公民館まつりについては、来場者数3,027人、うち音楽会は112人だった。本年度は、講演会を音楽会として開催し、ヘルマンハーブという珍しい楽器の優しい音色が大好評だった。

また、前回の公民館運営審議会でなかまちテラスまつりの来場者数を速報値で報告したが、正式な来場者数は、2,889人で、講演会は55人だった。

来場者数のカウント方法については、基本的に、パンフレットの配布数や受付した人数、発表の参加者数など、各館、それぞれの実行委員会を中心に、工夫しながら来場者数を算出している。なお、なかまちテラスまつりについては、まつり開催時間の10時から16時までの出入口ゲートの通過延べ人数から、算出している。

(4) 中央公民館の講座のための意見交換会

中央公民館の仲間をつなぐ楽しい場「結いカフェ」と同時開催で、7月23日土曜日の午後1時30分から、講座室1で開催する。是非、出席してほしい。

2 平成28年度小平市公民館定期講座実施状況について  
事務局より資料2について説明した。

(質疑応答)

中央公民館について

会 長 「オリンピック参加国について学んで応援しよう」について応募者の年齢層はどうか。

事 務 局 60代以上の人が多かった。

委 員 憲法講座は終了していると思うが、その報告は。

事 務 局 本年度新しく開催したものを中心に報告した。憲法講座は、今月で終了している。

各分館について

委 員 大沼公民館の地域連携講座「外国人との交流」について対象年齢は。

事 務 局 まだ、詳しく打合せしていないが、幅広く募集できればと考えている。

委 員 幅広い募集をお願いしたい。

委 員 鈴木公民館の「地域に出張カフェするサークルづくり」の講師は市議会議員だが、問題は  
はないか。

事 務 局 市議会議員として講師を依頼している訳ではないので、特に問題はないと認識している。

委 員 鈴木公民館の「季節の手仕事を身に付ける」で講師が主婦とあるが、どうやって選んだ  
のか。

事 務 局 利用者からの情報によるもので、事業企画委員会の委員からの紹介である。

委 員 全館にかかる要望だが、家庭教育講座の親子で一緒に参加する講座については、母親と  
の参加が主流だが、父親の参加を促すための企画を考えてほしい。

委 員 地域連携講座について、花小金井南公民館や上宿公民館はまだ着手していないようだが、  
全館で実施するのか。

事務局 地域連携講座は全館で実施する予定になっているが、資料 2 に載っていない公民館についてはまだ計画段階で報告できる状態ではない。

委員 資料の余白に分館長の名前と公民館の所在地や電話番号を入れたら便利だと思う。

会長 是非、お願いしたい。

委員 「パソコン講座」について、中央公民館の応募はまだ多いようだが、分館では定員割れしている。「タブレット」や「スマートフォン」などの需要は多いようなので、それに合わせて内容変更について検討してほしい。

事務局 現在のパソコンのリース期間が、今年度で契約満了となる。よってその先については、今後、検討していく。

委員 小川公民館のジュニア講座「楽しいヒップホップダンス」の応募状況はどうか。

事務局 午後の部の中学生についてはなかなか人が集まらないので苦労している。

委員 小・中学生に浸透すればいい講座だと思うので、毎年どこかの公民館で続けてもらいたい。

### 3 公民館まつり開催報告について

事務局より資料 3 について説明。また、中央公民館からはタイムリー講演会について報告した。

(質疑応答)

委員 中央公民館のまつりは、なぜ分館の代表が実施するのか。中央公民館のサークルが実施するものではないのか。

事務局 「小平市公民館まつり」は、もともと「八館会まつり」といい、各分館の利用者懇談会や友の会をもって構成されている、現在の九館会が主体となって運営している。各分館で実施する「まつり」では発表の場所が少ないとの声があったことから、年度の終わりに中央公民館で開催したことが始まりだと認識している。

委員 分館のサークルの中には、「中央公民館でまつりを実施するために、分館の他にもう一

回まつりの準備をしなければならない。」という意識がある。「なぜ実施するのか。」についての考えが各サークルに浸透していない。

事務局 そういった状況があるのであれば、公民館と共催で実施している九館会に意見を伺い、検討していく。なお、中央公民館の活動サークルが展示・発表をする場所としては、「サークルフェア」を実施している。

委員 「サークルフェア」と「小平市公民館まつり」の違いはなにか。

事務局 「サークルフェア」は中央公民館で活動するサークルの見本市であり、「小平市公民館まつり」は九館会が中心となって実施するまつりである。なお、「小平市公民館まつり」では、分館・中央を含めた公民館全体の講座の成果を発表する「学習成果発表展」と同時開催している。

委員 「小平市公民館まつり」という名称が、開催場所である中央公民館のまつりと思われ、わかりにくい。名称を考えた方がいいのではないか。

事務局 「八館会まつり」を「小平市公民館まつり」に名称を変えたのが平成 19 年度である。

委員 九館会が各分館の参加を強制的に行い、無理して大きくする必要はないと思う。

事務局 次回の九館会の集まりで、実行委員に伝えておく。

委員 土曜子ども広場「友・遊こどもまつり」は中央だけでなく、分館でも実施しているのか。

委員 子ども広場「友・遊」は各分館で実施しているが、「友・遊こどもまつり」については中央だけで開催している。

委員 前回の審議会で話題になったが、まつりの来館者数にこだわるのなら、カウントの方法を統一的にした方が数えやすいのでは。しかし、内容を各分館で工夫しているのであれば、その方が大事なのではないかとも思った。

委員 各分館の建物の構造が違う。参加者数をカウントするために「公民館まつり」をやっているわけではないので、おおよその統一したカウントの仕方これからカウントすればいいと思う。また、質の問題や満足度の問題をどう測ったらいいのか、「よかった」という抽象的な評価でなく、具体的な評価についてある程度考える必要があるのでは。

委員 例えばパンフレットの配布数でカウントしてはどうか。

館長 受付でのパンフレット配布時以外にも、駐車場で開催しているバザーに来た人、発表した児童・生徒など、各分館によってまつりへの来館や参加の方法が違う。そのような分館の状況を把握したうえで、各実行委員が工夫しながら、より実態に近い来館者数をカウントしているので、統一せず、その館ごとのカウント方法でいいと認識している。

委員 公民館活動の評価基準がわからないので、関東甲信越静公民館研究大会の分科会で情報収集する予定である。

4 公民館事業企画委員会の開催報告について  
事務局より報告。

5 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について  
事務局及び委員より資料4・5について説明。

6 その他  
・公民館講座のための意見交換会について  
・関東甲信越静公民館研究大会について

次回は、9月20日（火）15時より、中央公民館会議室にて開催予定。